

1.単元の目標と単元構成

目 標	・江戸時代の文化や学問の様子や活躍した人物に関心をもち，歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について意欲的に追究することができるようにする。 ・新しい学問が発達し，町人の文化が栄えたことや人物の働きを，国学や蘭学，歌舞伎や浮世絵などの様子から考えることができるようにする。 ・調べたことをもとに，町人の文化や新しい学問について，分かりやすくまとめたり発表したりすることができるようにする。 ・社会が安定するにつれて，産業や交通が発達し，歌舞伎や浮世絵などの町人の文化が栄えたことや，国学や蘭学などの新しい学問が起こったことを理解させる。
--------	--

①平和になった江戸時代は，人々の暮らしがどのように変わったか予想する。

人々の暮らしの変化を教科書や資料集で調べる。

②調べたことを発表し合う。

・産業の発達 ・人口の増加 ・交通の発達 ・文化の発展

③④⑤近松門左衛門，歌川広重，松尾芭蕉，杉田玄白，本居宣長，伊能忠敬の中から2人を選び，人物の業績や作品の特徴を調べ，かわら版にまとめる。

- ・近松門左衛門の作品や人形浄瑠璃，歌舞伎の特徴
- ・歌川広重の作品の特徴や浮世絵技術の発達
- ・松尾芭蕉の作品の特徴や後の時代に与えた影響
- ・杉田玄白の医学に対する業績や研究にかかわる苦労
- ・本居宣長の古事記の研究の様子や思い
- ・伊能忠敬の測量の様子や測量にかかわる苦労

⑥かわら版を発表し合い，友達が調べた人物について知る。

⑦江戸時代の文化や学問が果たした役割を考え，近松門左衛門や歌川広重，松尾芭蕉，杉田玄白，本居宣長，伊能忠敬たちに手紙を書く。

2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1)旧学習指導要領からの改訂内容

「歌舞伎や浮世絵」及び「国学や蘭学」の学習については、「それぞれいずれかを選択して取り上げることができること」という内容の取扱いが削除されている。本指導計画では近松門左衛門、歌川広重、松尾芭蕉、杉田玄白、本居宣長、伊能忠敬の6人を取り上げ、具体的に調べて交流し合うことにより、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことがわかるようにした。

(2)人物の働きに対する興味・関心を高めるための工夫

人物に関するエピソードを調べる活動を通して、人物の人となりに対する興味・関心や問題意識をもてるようにし、子どもたちが意欲的に人物の働きについて追究できるようにした。

近松門左衛門については、当時、身分や男女の別なく、多くの人々が歌舞伎を楽しんでいたことを芝居小屋の絵からつかませ、脚本家として活躍した近松門左衛門の働きについて関心がもてるようにする。

歌川広重については、浮世絵を見ることで、当時の人々に大変親しまれていたことや人々に与えた働きについて関心がもてるようにする。

松尾芭蕉については、作品を紹介することで身近に感じさせ、現代にも影響を与えていることに目を向けさせていく。

本居宣長については、当時新しい学問として国学が発達したことを紹介し、35年の歳月をかけて古事記を研究したことを知らせることで働きに関心がもてるようにする。

伊能忠敬については、忠敬が作った地図と現代の日本地図を比較し、その正確さから忠敬がどのようにして今の地図と変わらない正確な地図を作ったのだろうという問題意識をもてるようにする。

調べる段階では、6人のうちから、興味をもった人物2人を選択してその働きについて追究する。

このことで、興味・関心を持続させながら深く追究することができると考えた。図

書資料を活用して調べていくことになるだろうが、可能であれば作品のレプリカなどを用意して、実感を伴った学習にしたい。

人物によって偏らないように資料を用意することも大切である。

(3)言語活動の重視

学習指導要領で、言語活動を重視していることを受けて、調べて考えたことをかわら版（人物新聞）にまとめる活動を取り入れた。

また、それをもとに交流し合い、互いに調べた人物について知らせ合う活動を行う。

さらに、本小単元の終末に江戸時代の文化と現代の文化の関係を考え、近松門左衛門、歌川広重、伊能忠敬らに手紙を書くという活動を行う。考える活動や書く活動を多く取り入れることで、表現力の育成に結び付けたい。

(4)我が国の伝統や文化を尊重する態度の育成

現代の文化との関係を考えさせることで、歌舞伎や浮世絵など江戸時代に花開いた文化が現代まで大切に受け継がれてきたことに気づき、伝統文化を大切にしていこうとする態度を身につけさせたい。

(5)学び合い活動

各自が調べた内容について交流する機会をもつ。調べ考えたことを伝えることで、人物に対する理解を深め、自分が調べた人物以外のことも知ることができるようにする。

3. 展開例

にぎわう都市，花開く文化〔7時間〕

小単元目標 江戸時代の文化や学問に関心をもち，歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について調べ，社会が安定するにつれて文化が町人の間に広まったことや，新しい学問が生まれてきたことをとらえさせる。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	◆時代の変化は人々の生活にどのような変化をもたらしたのかについて関心をもち，進んで調べようとする。 (1) ◆調べたことを発表し合い，生活の変化の概要をつかむ。 (1)	①平和になったことによって，江戸時代には人々の暮らしがどのように変わったか予想する。 ②人々の暮らしの変化を教科書や資料集で調べる。 ③調べたことを発表し合う。 ・江戸は「将軍のおひざもと」と呼ばれ，人口が100万人をこえた ・産業が発達した ・大阪は「天下の台所」と呼ばれ，経済の中心地になった ・商人が力をつけた ・五街道が整備された ・全国をつなぐ航路も発達した ・町人が新しい文化（人形浄瑠璃，歌舞伎，浮世絵俳句）を生み出した ・新田が開発され，生産も高まった ・信仰と楽しみをかねた旅が流行した ・外国の学問を学ぶ動きが強まった ・寺子屋や藩校が作られた	□前単元のまとめ「江戸時代は厳しい時代だったが平和になった」を紹介しながら，学習に入る。 □経験をもとに予想させる。 □予想が正しいかどうかを，教科書や資料集を使って調べさせる。 <生活の変化に関心をもち，進んで調べようとしている。> 【関・意・態】 □発表を「都市」「産業」「娯楽」「学問」などの項目に整理しながら板書していく。 □教科書や資料集のどの部分を参考にしたかも発表させ，全員で確認しながら進めていく。 ●近松や広重などの肖像画 <生活の変化のおおよそを理解している。> 【知・理】
	◆文化や学問において活躍した人物を調べ，かわら版（人物新聞）にまとめる。 (3)	江戸時代には，どのような文化や学問が生まれたのだろう。 ①文化や学問にかかわる資料を見る。 ②町人文化や国学・蘭学にかかわった人々を2人選び，図書資料などを使ってはたらきを調べる。 ・近松門左衛門の作品の特徴や芝居小屋の様子 ・歌川広重の作品の特徴や浮世絵技術の発達	●歌舞伎を描いた浮世絵，東海道五十三次の絵，芭蕉の俳句，解体新書，古事記伝の一節，伊能図 □近松・広重・芭蕉から一人，杉田・本居・伊能から一人を選んで調べることにする。 □調べる事柄は，①人物紹介，②作品紹介，③思いや苦労などのエピソード，とする。

調べる		・松尾芭蕉の主な俳句や奥の細道の旅 ・杉田玄白の業績や苦勞 ・本居宣長の古事記の研究の様子や思い ・伊能忠敬の測量の様子や苦勞 ③調べたことをかわら版（人物新聞）にまとめる。	□調べながら書き込めるよう、かわら版の形式を工夫する。 ・1枚の画用紙を2つに折る。 ・内容は見出しと記事とする。 ●人物についての資料 ＜資料を活用して、文化や学問にかかわった人物を調べ、簡潔にまとめている。＞【技】
まとめる	◆調べたことを進んで伝えたり、発表を聞くことで町人文化や新しい学問が興ったことが分かる。 (1) ◆江戸時代の文化や学問の果たした役割を考え表現する。 (1)	①かわら版を使って、調べた人物について発表する。 ②要点をメモしながら発表を聞く。 ①江戸時代の文化や学問の果たした役割を考える。 ②近松や広重、芭蕉、杉田、本居、伊能たちに手紙を書く。	□変則的なポスターセッション型で発表会を行う。同時にクラスの3分の1が発表する。その発表を2人ずつの子が聞く。 1回の発表は3分。3分たったら、聞き手だけが場所を移動する。このようにして、2回目、3回目の発表をする。3回の発表が終わったら、発表者が交代する。 3分×3回の発表を、3セット行くとクラス全員が発表したことになる。 □ワークシートに要点を記入させていく。 ＜調べたことを進んで伝えようとしている。＞【関・意・態】 ＜歌舞伎や浮世絵などの町人の文化が栄えたことや、国学や蘭学など新しい学問が興ったことを理解している。＞【知・理】 ●歌舞伎の海外公演の写真 ●海外で作られているHAIKU ●伊能図以前の日本地図 □江戸時代の文化は現代まで受け継がれているものが多く、海外にも影響を与えていることや、学問の発展が世界に対する関心を高めていったことに気付かせていく。 ＜江戸時代の文化や学問が果たした意味を考え、手紙形式で表現している。＞【思・判・表】